

ヒエーツ、これが1万3千ドルだったって
NYで売り出された女性「ミイラの」買い手



PHOTO 田中 道

店主が勧める「ミイラ」商品は古代エジプト第23〜24王朝「貴族」令嬢の「首」

「さあミイラはいらんかね。二セモノじゃない、本モノのミイラだよ。しかも、エジプト第23王朝から第24王朝時代の女性だよ。値段は1万3千ドル(約200万円)ポッキリ。さあ持つてけ、ドロボー!」

とまあこんな風に叩き売りしているわけではないが、写真中央の木枠のケースに納まっているミイラが、最近売りに出され、珍しモノ好きでは有名なNYっ子も「ヒエーツ」なのである。

このミイラは、写真のヘンリー・ガリアン氏(39)ガイギリス人コレクターから手に入れたもの。ご本人の鑑定によると、時代は紀元前9〜8世紀で、弁護士とが判事など司法関係の貴族の令嬢」だという。大英博物館やカイロ博物館にミイラはたくさんあるけど、一般人が買えるなんて、ウチへはいじゃないかな」とガリアン氏は鼻高々である。

こんな珍商売をするだけあって、ガリアン氏の経歴はちよつと変わっている。彼は、もともとNY自然史博物館に勤務していた。ところが、ある日不要の骨をノミの市に出したところだちまち売切れたのにピンと

きて、骨だけを集めて売る専門店をつくり、商売替えしたのである。

5年前にオープンしたこの店では人間のガイコツや腕、指など(これは作り物)からソウ、キリン、ネズミまで、骨と名の付くものなら何でも扱っている。今や、骨解剖学、古生物学などの専門家を含むスタッフ10人を抱え、地下には骨を磨く工場まで備える繁盛ぶりである。カの前衛芸術家、アンディ・ウォーホルも生前、足繁へこの店に通って何もいわずに骨をジツと見詰め、何百枚も写真を撮っていったという。

さて、店主お勧めのこの「ミイラ」商品だが、ミイラの保存法は簡単に、湿気だけ気をつければよい。置く場所としては、台所や洗面所は避け、居間などがよい」とのことである。

とはいえ、1万3千ドルも払って毎日「田田」こんな気味悪い「首」と同居する勇氣のある買い手って、ホントにいるのかな?



「かっこいい」というような形容詞をつけていただきたい。



2月 25・26・27・28
3月 4・5・6・7・8

TOKYO BAY BOAT
HEIWAJIMA

平和島競艇 12R制 発売 11:00
リアルタイム・レース情報!
文字放送で放映中(10ch, 280#, 281#, 282#)